

## (1) 複式教育研究会

### 1. 研究主題

「自らの考えを持ち、共に高め合う児童の育成

～主体的に学び、考え、表現することのできる授業を通して～」

### 2. 研究経過

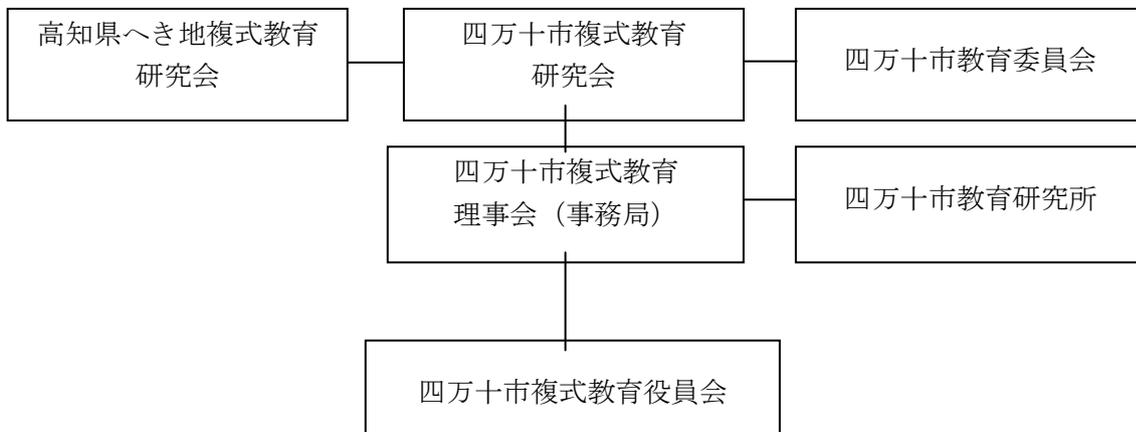
#### ①R2 年度会長・副会長・事務局・会場

会長	蕨岡小学校
副会長	大用小学校
事務局（研究集録の取りまとめ）	蕨岡小学校
研究大会の会場校	蕨岡小学校
研究大会の期日	令和2年10月28日（水）

#### ②役員

会長	石川 真紀	蕨岡小学校 校長	輪 番
副会長	池上 みどり	大用小学校 校長	輪 番
事務局	渡辺 昌幸	蕨岡小学校 教頭	輪 番
理 事	陸野 高俊	中筋小学校長	
	北代 大	川登小学校長	
	池上 みどり	大用小学校長	
	浜口 明大	利岡小学校長	
	石川 真紀	蕨岡小学校長	
	柴田 満嗣	下田小学校長	

#### ③研究組織



④年間予定

第1回 理事会	令和2年4月3日(金)校長会後
組織総会	令和2年度から中止
指導案検討会→会場校で	令和2年度から会場校のみで実施
研究大会：蕨岡集会	令和2年10月28日(水)午後
第2回 理事会	令和3年2月19日(金)校長会後

⑤会則

四万十市 複式教育研究会・新会則 (R2年度～)

- 第1条 この会は、「四万十市複式教育研究会」と称する。
- 第2条 この会は、複式指導の研究並びに複式校の学力の向上を図ることを目的とする。
- 第3条 この会は、四万十市の複式校に勤務する教職員とこの趣旨に賛同する者をもって組織する。
- 第4条 この会は、目的達成のため、次の事業を行う。
- (1) 研究大会
- 第5条 この会の組織として次の部を置く。
- ◎ 校長部会(理事会) ◎ 事務局
- 第6条 この会に次の役員を置く。任期は総会から次年度総会までの1ヶ年とする。

役員名	人数
会長	1名
副会長	1名
理事	各校1名
事務局	1名

- 第7条 役員の任務は次の通りとする。
- (1) 会長は会を代表する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。
- (3) 理事は各校を代表する。
- (4) 事務局は庶務全般にあたる。
- 第8条 役員の選出は次の通りとする。
- (1) 会長・副会長・事務局は輪番とする。
- (2) 理事は、原則として各学校の校長が引き受けるものとする。

⑥役員の輪番

年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
会長	大用小	中筋小	川登小	八束小	蕨岡小	大用小
事務局	大用小	中筋小	川登小	八束小	蕨岡小	大用小
副会長	利岡小	大用小	中筋小	川登小	大用小	利岡小
会場校	大用小	中筋小	川登小	八束小	蕨岡小	大用小

大用小→利岡小→中筋小→川登小→八束小→蕨岡小→大用小→利岡小→下田小…(固定順)

※副会長は次年度の担当校の校長とする (R2年度から)

3. 研究大会 (蕨岡大会)

日時 令和2年10月28日(水) 14:45～16:45  
 会場 四万十市立蕨岡小学校 高知県四万十市蕨岡甲6685

日 程

14: 20 14: 45

15:30 15: 45

16 : 45

受 付	公開授業（6校時） （各教室）	休 憩	開 会	低・中・高学年分科会	閉 会
			分科会		

(1) 授業

学級名	教科名	単 元 名	授 業 者	児 童 数
1.2年	算数	1年「たしざん」 2年「さんかくやしかくの形をしらべよう」	舛市 富美	1年 5名 2年 1名
3.4年	算数	3年「まるい形を調べよう」 4年「およその数の使い方と表し方を調べよう」	山崎 充子 藤原 初美	3年 4名 4年 5名
5.6年	算数	5年「分数と小数の関係を調べよう」 6年「円の面積の求め方を考えよう」	渡辺 昌幸	5年 1名 6年 4名

(2) 分科会（授業研究協議）

	教 室	司会者 (所属)	記録者 (所属)	運営協力者(所属)
低学年 部会	1・2年 教室	永野 恵理香 (利岡小)	野村 拓子 (中筋小)	柴田 満嗣 (下田小学校 校長)
中学年 部会	3・4年 教室	宮村 幸 (大用小)	市原 百梨佳 (利岡小)	池上 みどり (大用小学校 校長)
高学年 部会	5・6年 教室	安田 政司 (中筋小)	遠近 良太 (川登小)	渡辺 美香 (西部教育事務所 指導主事)

(3) 協議内容

(1.2年生)

- 一人学年でも困った時に活用できる準備をしっかりと行っていた。
- 自分達で学習を進めそれぞれの考えを発表しながら取り組むスタンダードが定着している。
- 意見や質問を子ども同士で交流させながら授業を進めることができていた。
- 書画カメラを使ったことは非常に良いが、学びをノートに残す工夫が必要であった。

(3.4年生)

- 課題設定が工夫されており、学びの必然性につながっていた。
- 準備物が整っており、一人学びの際の学習の手だてとなった。
- めあての設定が本時と重なっていなかったのではないかな。
- 複式授業においてどちらかが間接指導になることはやむを得ず、学習展開の工夫が必要になってくる。

(5.6年生)

- 学習スタイルが確立されている。主体的な学びに長けている。対話も子ども同士で話し合っている。
- 図形などを事前に置いておくことが、一人学びの手立てとなっていた。
- デジタルコンテンツを使った上での説明を子どもが行っても良かったのではないかな。

- 資質・能力ベースを生かした授業づくりをもっと進めていくと、さらに学びの深まった授業になるのではないか。

#### 4. 今年度の成果と課題

- 公開授業を通して複式校が一堂に会し交流を行うことで情報交換ができた。
- 新学習指導要領に基づいた複式授業の研究を進めることができた。
- 助言者に指導して頂くことで、授業者はもとより参観者もたくさんのことを学べたという感想が多かった。この会において公開授業は引き続き行っていきたい。
- 複式学級を有する学校が流動的であるため輪番が決めにくい。